ライオン通信
<URL>http://www.kooge.jp/
Vol. 171　平成 30 年 3 月 10 日発行

郡家コンクリート工業株式会社
〒680-0433 鳥取県八頭郡八頭町山上 363-17
TEL(0858)73-0500　FAX(0858)73-0535

働き方改革の目的

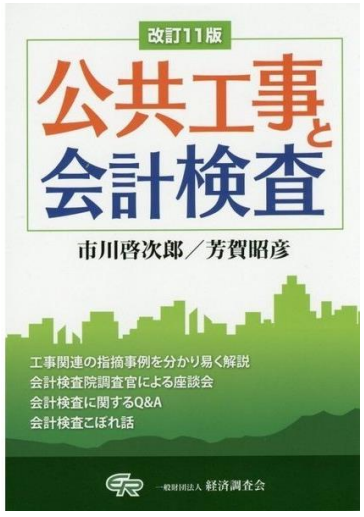
～柔軟な働き方がしやすい環境整備をしよう～

毎日のように「働き方改革」という言葉を聞きます。
「一人ひとりの意思や能力に応じた多様で柔軟な働き方ができる社会を追求していくことで、国民の※ワーク・ライフ・バランスを実現し、生産性向上を目指し、企業文化や風土を変えること。」だそうです。

※ワーク・ライフ・バランスとは、「仕事と生活の調和」で「国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる」こと。

要は従来のように、皆が画一的な条件や状況の中で働くのではなく、「各人の能力や環境(状況)に応じた働き方をすることで、やりがいを持って楽しく働き、生産性を上げ、そして家庭生活をはじめとしたプライベートも充実させよう」ということです。
その背景には、「労働人口の減少」や「長時間労働」・「正規・非正規の待遇問題」や「子育てや介護」など長年懸案の問題が根っこにあります。
その中でも長時間労働は話題になっていて、日本は欧州と比べて労働時間が長く、「KAROUSHI（過労死）」という言葉が英語辞典に掲載されるほどです。電通をはじめ多くの一流企業もが違法残業をさせ、その結果、長時間労働や仕事のストレスにより自殺や過労死が増え続け、大きな社会問題になっています。
長時間労働の問題は、出生率の減少や待機児童問題、諸外国と比較した生産性の低さなど多くの問題の原因です。
（2015 年の日本の名目労働生産性は一人 783 万円/年ですが、これは先進 7 カ国の中で最下位です。）
私も来年は 60 歳になり、勤め人なら定年です。自分なりには一生懸命働いてきたつもりですが、休日出勤したり、長時間労働になりがちでした。
また、個々の社員にもっと適した働き方や、適正などを真剣に検討するべきだったのではないか、と反省するところがあります。
私が尊敬する松下幸之助さんは、1965 年から松下電器に週休二日制を取り入れ、当時としては画期的なことで、たぶん日本企業としては第一号ではなかったでしょうか。
彼は「世界と戦うため、国際競争力を高めなければ」と考え、社員に「一日休養・一日教養」と、単に２日休むのではなく、「週休二日制にすることで、世界に勝とう」というメッセージ発信しました。

以前から、コンクリートにまみれ、油にまみれるコンクリート製品会社は不人気業種ですが、年々、求人に苦労しています。新卒だけでなく、中途採用でも状況が悪くなっています。今月から新卒の説明会が始まりますが、国の仕組みがどうであれ、会社の中で「働き方改革」に挑戦していかなければ、もう人は来ない時代になったことは間違いありません。



会計検査Ｑ＆Ａ

『公共工事と会計検査』の改訂 11 版より「会計検査Ｑ＆Ａ」をご紹介します。
一息ついて読んでいただければ幸いです(^-^)/

著者の芳賀　昭彦(はが　あきひこ)氏は昭和 30 年生まれ。
元会計検査院農林水産検査第 4 課長を務め、現在は一般財団法人経済調査会技術顧問としてご活躍中です。

今月の質問：　調査官は質問の意図を明確にしてほしい

Q.　実地検査の際に調査官が発した疑問に答えるため、膨大な資料を徹夜で作り、翌朝手渡すと「そんな資料まで要らなかったのに」と言われた。会計検査時に的確な対応をとることができるために、調査官は検査の際、もっと質問の意図を明確に示してほしい。

A.　会計検査の方法については別にマニュアルがあるわけではなく、会計検査院として調査官に「こういう方法で検査すること」と指示を具体的に出していません。

　そうした意味では、会計検査においては、調査官の「個人技」が相当認められているといえますし、実地検査という最前線における調査官の判断というものを会計検査の原点として重視しています。

　検査の進め方のスタイルは、調査官一人ひとり違いますが、検査においては、初めから問題のポイントが絞られているということは少なく、調査官は試行錯誤しながら疑問点を質問し、問題点の解明を図っていくというのが普通です。

　したがって、調査官もわかっていながらあえて質問することもあれば、本当に知らずに質問する場合など色々です。質問の意図がどこにあるかということは、直接受検する人が判断するしかないのではないでしょうか。意図を明確にしないで質問するというのも検査テクニックとしてあるわけです。

　問題なのは、受検側の方が、調査官の質問の趣旨を曖昧なままで受け止めて対応することではないでしょうか。調査官に対して、質問の意図はともかく、質問の内容については誤解のないようきちんと確認して答弁するのは当然ですし、決して失礼なことではありません。

資料作成に関していえば、変に慎重になったり気を回したりせずに、どれだけの資料を準備する要があるのかをはっきり聞くべきです。また、調査官側も資料要求する以上必要な項目や内容を明確に伝える義務があります。

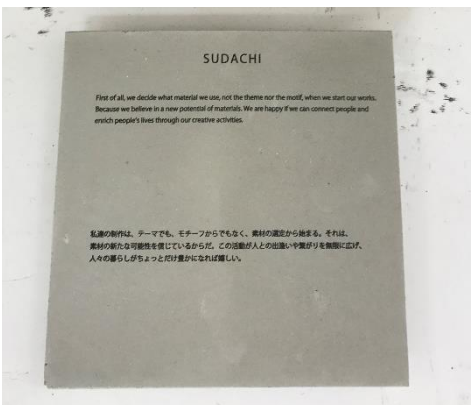
レオちゃんの製品紹介コーナー

こんにちは。
ライオン通信のレオちゃんです！

今月は、**コンクリート製オブジェ**をご紹介します。

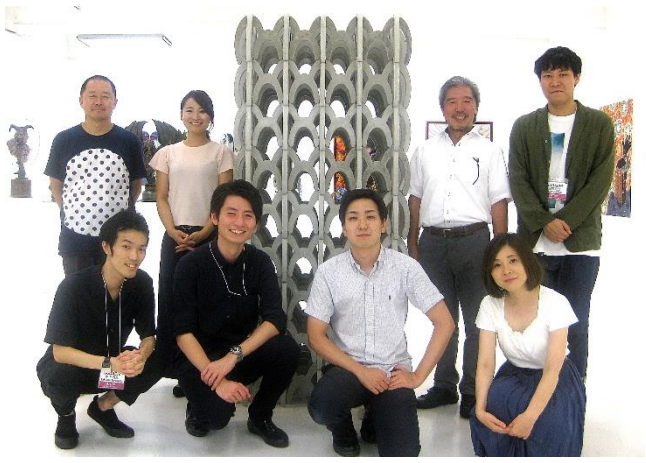
デザインプロジェクト『 kooge.co 』にお問い合わせ頂き、
展示会用のアート作品を制作しました。

今回は、作品と製造工程の一部をご紹介します。



＜展示会のキャプション＞

＜マンションの室名板として＞



＜アーツ千代田３３３１　展示会にて＞

上記写真は、４人の若手デザイン集団『ＳＵＤＡＣＨＩ』（舩橋宗平さん、安部紀之さん、在原聡一さん、寺下拓真さん）デザインの作品「**Ｗａｖｅｓ**」です。
２０１７年８月に東京都千代田区のギャラリー「アーツ千代田３３３１」で開催された現代アートによる国際交流展「美の探求」で展示されました。
この作品は、コンクリート製の４つのパーツ（厚さ約２４ｍｍ、重さ約４．５ｋｇ/個）を２ｍ程度の高さまで接着材料を使用せずにかみ合わせだけで積み上げています。
和風の波を表現しており、組み合わせ次第で様々な形に変化します。

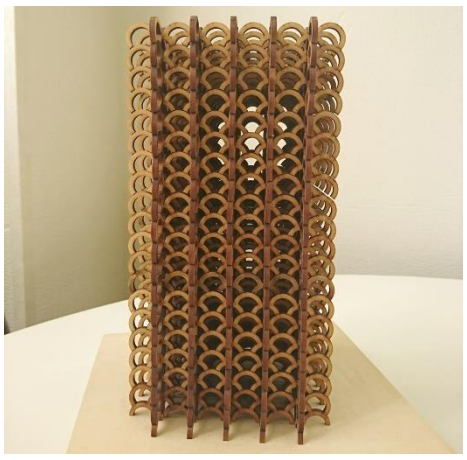
制作のきっかけは、ｋｏｏｇｅ.ｃｏで配布しているサンプルキットをご覧頂いた後、２０１７年３月に行われた建築・建材展で実際に展示物を見て頂いたことでした。

形状が複雑な為、型枠の素材選びから密に相談しながら制作を進めました。
一緒に考え、工夫し、形にしていくことの楽しさを改めて感じることができた作品です。

各作品のキャプションもＳＵＤＡＣＨＩ様デザインで制作しました。
建築家の細矢仁さん（細矢仁建築設計事務所）に気に入って頂き、東京都内のマンションの室名板にも採用されました。

左記写真は、２０１７年１０月に東京都世田谷区の「ＩＩＤ世田谷ものづくり学校」で開催した弊社主催のＨＰＣ®（ハイブリッドプレストレストコンクリート）･特殊品の展示説明会時の展示写真です。

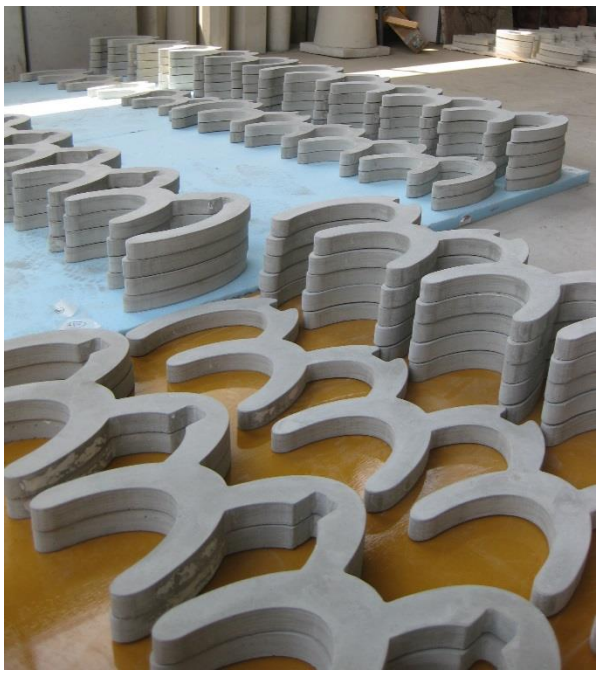
「Ｗａｖｅｓ」は様々な組み合わせが可能で、写真はクロスにかみ合わせた脚部に、ガラスの天板を置くことでおしゃれなテーブルとなりました。



製造工程(一部)

制作前にＭＤＦ（木質合成板）の模型をいただき、製品の仕上がりイメージの打ち合わせを行い、お互いのイメージを合致させていきます。

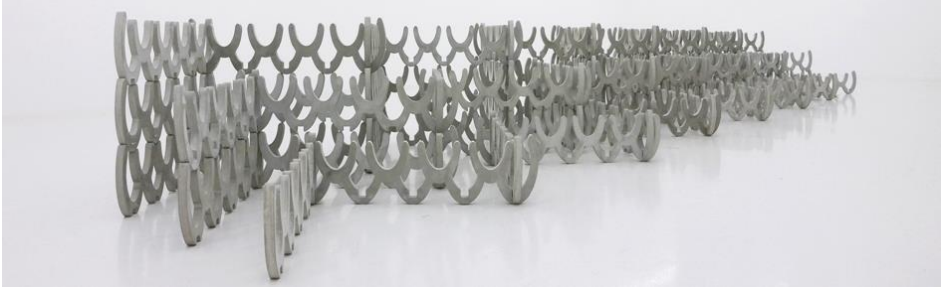
右のパーツがマスターとなります。
このパーツをもとに型枠をおこしていきます。
マスターパーツを抜きやすくなるために表面にコーティングを施しています。



○ 脱型完了 ○

型枠は柔軟性のあるシリコン製の型枠を制作し、高強度ファイバーコンクリートで製作しました。

製品の形状や、注文数によって型枠の材質を決めていきます。



…編集後記

株式会社セメント新聞社様発行の月刊誌『コンクリートテクノ』２月号にＳＵＤＡＣＨＩ様のインタビューが掲載されました。
素材の可能性を信じ、「素材との出会い」「人との出会い」を大切にし、幅広く活躍される皆様の様子が３ページにわたり掲載されていますので、是非ご覧ください。

ＳＵＤＡＣＨＩの皆様との御縁を大切に、コンクリートという素材を活かしたものづくりにもっと磨きをかけていきたい　と感じます。　（川本）